

総括

●今年度の実績

○小牧山

～着実な準備で(仮称)史跡センターオープンに向かう～

観光ボランティアガイドの内容の見直しをはじめ、新たな観光パンフレットや看板の作成等、小牧山の魅力を発信する体制を、ソフトとハードの両面から検討すると共に、可能なものから実行しました。また引き続き、(仮称)史跡センターオープンに向けて着実に準備を進めました。

○名古屋コーチン

～発祥の地に名古屋コーチンが買える環境を～

“発祥の地小牧に名古屋コーチンが食べられる・関連商品が買える環境づくりを行う”という方針にのっとり、事業者の名古屋コーチンを使用した商品の開発・メニュー化・PRを更に推進しました。

○航空宇宙産業

～愛知県の推進力を小牧市の観光・誘客へ取り込む～

愛知デスティネーションキャンペーンへの参加や、市内交通事業者による観光タクシー事業の開始とコースの新設等、新たな航空関連2施設を含め、愛知県の観光拠点を目指して集まる観光客を対象に、小牧市の観光・誘客に繋げるための取り組みに着手しました。

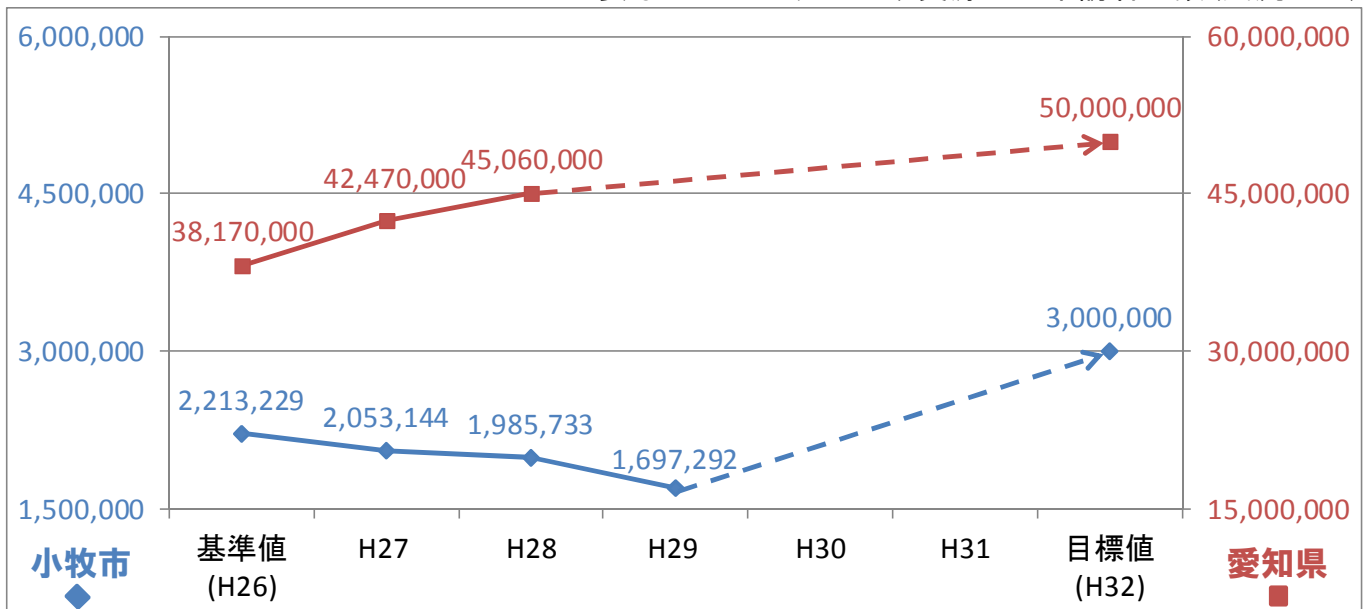
○総合

～来訪者の小牧市での観光と消費を呼び起こす～

移動の空き時間等で小牧を探索できるコースを提案し、“ビジネス目的での宿泊への高い需要”へアプローチを行ったほか、小牧市観光特産品開発チャレンジ事業費補助金や、(一社)小牧市観光協会推奨品の制度により、観光関連商品増設へ取り組みました。

●今年度の評価と課題

主要なイベント及び地域資源への来訪者の数(交流人口)



※愛知県の数値は「平成29年度版あいち観光戦略に基づく観光振興施策の実施状況・来県者数」による

総括

主要なイベント及び地域資源への来訪者の数(交流人口)は、平成 25 年に「小牧山城築城 450 年記念」の各種記念事業を実施したことにより、2,522,150 人と大幅に伸びたものの、その後は減少傾向にあり、今年は 1,697,292 人と昨年に比べて大幅に減少しました。

今年の減少に関しては天候不順や施設の工事等の影響があるものの(P53 参照)、小牧山城築城 450 年記念事業の効果による来訪者や、発信された小牧市の観光地としての魅力が、定着したとは言い難い状況です。

天候に恵まれれば、交流人口は回復すると考えられます。また、平成 31 年春には(仮称)史跡センターがオープンし、それによる来訪者の増加も見込まれます。

それを単年度の交流人口増加に留めず、何度も小牧市の観光を楽しんでいただけるような、安定した交流人口の増加につなげるため、引き続き、観光資源の魅力を磨き上げ、伝えていく取り組みが必要です。

●来年度以降の方向性

観光資源の魅力を磨き上げ、伝えていく取り組みの核となる「小牧山」に関しては、小牧山観光誘客推進プロジェクトの検討結果を踏まえ、(仮称)史跡センターオープンに間に合うよう、魅力発信体制をソフトとハードの両面から整えていく必要があります。

「名古屋コーチン」に関しては、引き続き、小牧商工会議所・(一社)小牧市観光協会・市の三者で、事業者の名古屋コーチンを使用した商品の開発・メニュー化・PR への支援を行い、“発祥の地小牧に名古屋コーチンが食べられる・関連商品が買える環境づくり”を推進したいと考えています。

そして来年度は、3 年間に渡る愛知デスティネーションキャンペーンの本番の年です。来訪者や旅行業者が、新たな航空関連 2 施設の情報等、愛知県の観光情報を収集する際、小牧市が魅力的なものとして目に留まり、立ち寄り先として選んでいただけるよう、旅行商品の提案や観光情報の発信に更に力を入れる必要があります。

また、旅行商品の提案や観光情報の発信を行うにあたっては、「小牧山」「名古屋コーチン」「航空宇宙産業」以外の地域資源を、どのように活用していくかも課題となります。本市は、「メナード美術館」や「田縣神社」など、既に認知度が高い地域資源を保有しており、特に「田縣神社」の「豊年祭」は、海外からの来訪者も多く、平成 28 年 3 月には市の無形民俗文化財に指定されています。小牧市が観光地として安定した交流人口を得るためには、それら地域資源の魅力を繋ぎ・発信していかなければいけません。

観光振興基本計画は平成 32 年度までを計画期間とし、平成 30 年度は折り返しの年となります。結果や成果を見据え、来年度も各事業を着実に展開していきます。